

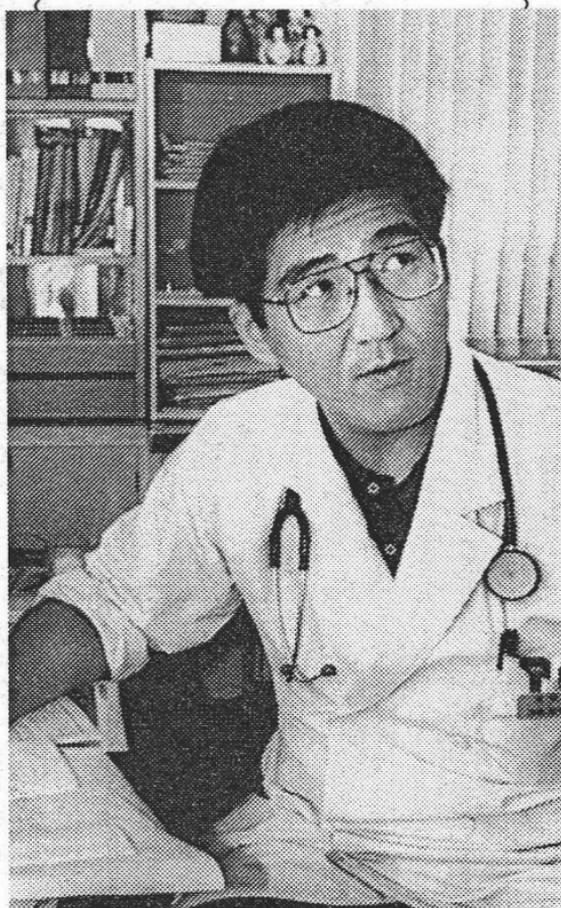


AMDA (アジア医師連  
絡協議会) の一員としてア  
ジアの医師約十人とともに  
ミャンマー難民の救援活動  
に参加して帰った。その最  
初の一言が「情けなかつ  
た」。二十万人の難民が苦  
しむ中、日本のボランティア  
と称する人たちが、お土  
産のランプを難民に手渡  
し、得意そうに記念写真を  
撮っていた光景があったか  
らだ。

ほかに、嘆くことは多  
かった。現地入りした日本  
の医療専門家は初めて。「日  
本から届けられたという薬

Bangladesh で難民を診療した

つまがり けんじ  
 津曲 兼司さん 35



## 「援助小国」情けなかった

品は、わずかにこれだけ」と 寂しそうにつぶやいた。

指さした現地の写真には

栄養失調で腹が膨れた子  
供たち、迫害で暴行を受け、  
いていた。

米諸国からやってきた多く  
の若者が汗だくになって動  
て回った。衛生状態が悪く、  
ほとんどが下痢をしてい

七、八本の薬が並んでいた。

惨状を目のあたりにした。難民はさすがのような目

「とても何万人を救おうと  
腰の骨が折れたまま足をひ  
きずる女性。こんな中で欧  
「一刻も早く、一人でも多  
で津曲さんらを見詰め、聴

いう意思は見られない」と

診器を当てるとほっとした  
笑顔を見せた。が、薬品が  
なく、十分な医療はできな  
かった。

「政治、権力の争いで、  
犠牲になるのは、いつも弱  
い人間。背後に見える黒い  
影に怒りを感じました」と  
口調が厳しくなった。近く  
AMDAの別のメンバーが  
Bangladesh に行く。「私  
たちが本当の意味での国際  
貢献の礎になります」。今  
秋には、パパになる医師の目  
は夢を追う若者のようにき  
らきらと輝いている。

薬品不足が続く、AMD  
Aは募金を呼びかけてい  
る。郵便振替で岡山五一四  
四三八〇のAMDAミャン  
マー難民へ。

(岡山市佐山)